

第4章 地域別構想

1 地域別構想について

地域ごとの都市づくりの目標とまちづくりの施策・活動の指針となる「地域別構想」を、都市拠点・地域拠点・生活拠点を中心とした『安中東地域』『安中西地域』『松井田地域』の3地域で定めます。

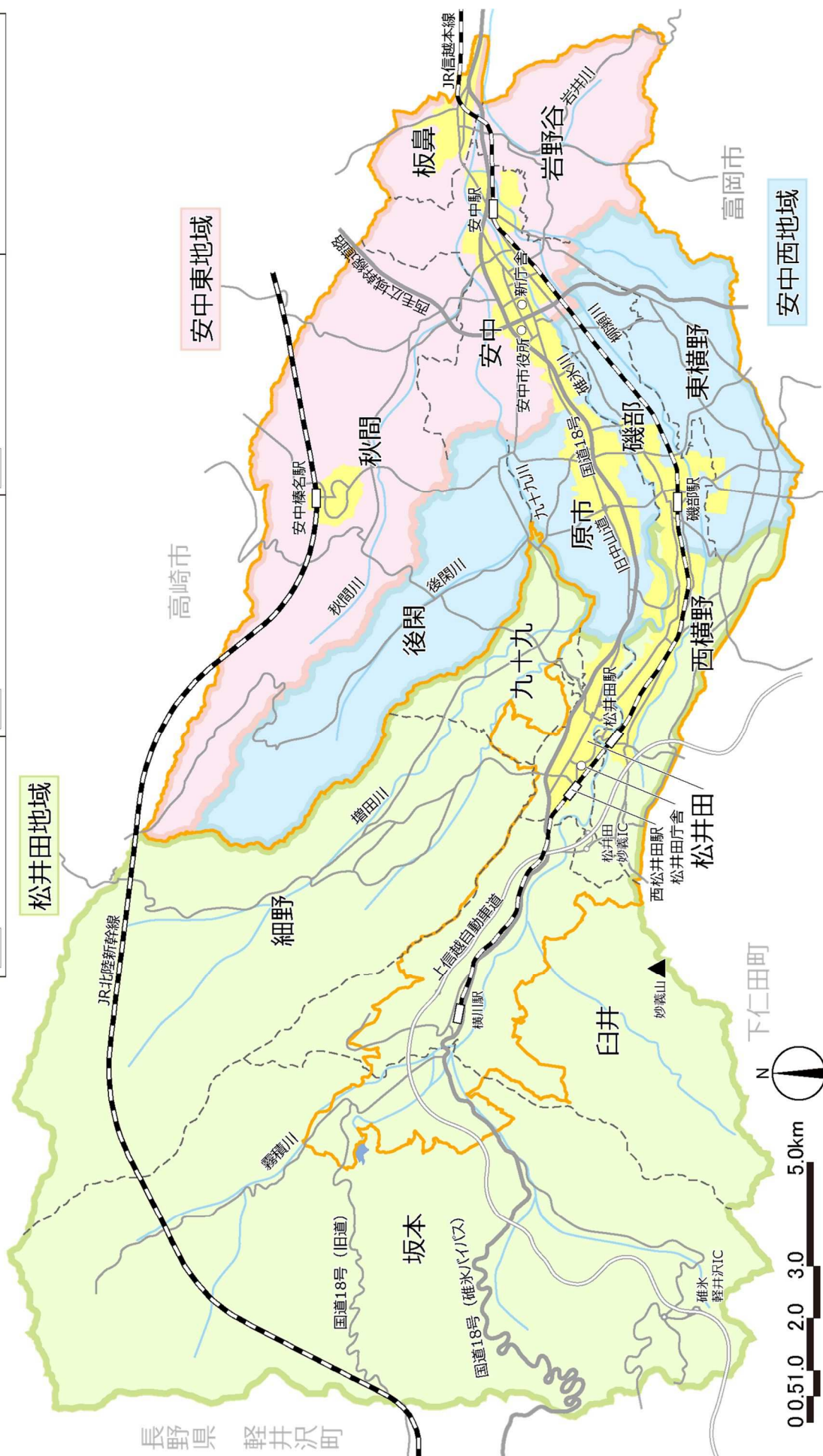
この地域別構想の3つの地域は、市内の行政区のまとまりである14の地区を基に構成しています。

表 地域別構想3地域と14地区との対応

地域別構想地域	地区名	
安中東地域	安中地区	中宿、安中、高別当、古屋、小俣
	岩野谷地区	岩井、野殿、大谷
	板鼻地区	板鼻
	秋間地区	西上秋間、東上秋間、中秋間、下秋間、秋間みのりが丘
安中西地域	原市地区	原市、郷原、嶺、築瀬
	磯部地区	上磯部、磯部、西上磯部、東上磯部、下磯部、大竹
	東横野地区	中野谷、鷺宮、上間仁田、下間仁田
	後閑地区	下後閑、中後閑、上後閑
松井田地域	松井田地区	新堀、松井田
	臼井地区	横川、五料
	坂本地区	峠、坂本、原、入山、北野牧、西野牧
	西横野地区	人見、二軒在家、八城、行田
	九十九地区	下増田、高梨子、国衙、小日向
	細野地区	土塩、新井、上増田

地域別構想地域区分

凡例				
用途地域指定エリア	安中西地域境界	上信越自動車道	鉄道・駅	
都市計画区域	松井田地域境界	主要幹線道路	河川	
安中東地域境界	地区境界	幹線道路・補助幹線道路		



2 安中東地域

2-1 地域の特徴

安中東地域は、市北東部に位置し、安中地区、岩野谷地区、板鼻地区、秋間地区の4地区で構成されています。

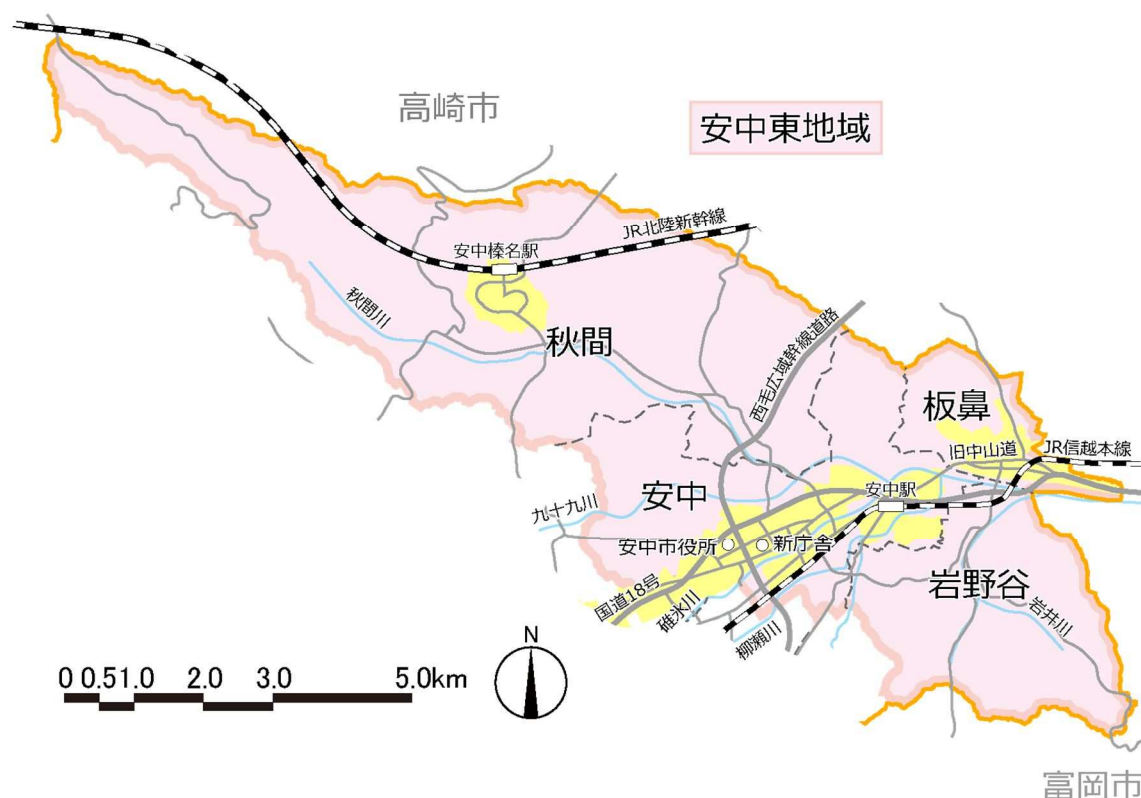
地域全域が都市計画区域となっており、安中市役所を中心に文化センターなどの都市機能が集積した都市拠点となっています。主な市街地は国道18号や旧中山道沿道に、低層戸建て住宅を主とした市街地が安中榛名駅南部や板鼻地区東部に形成されています。また、安中駅南側の丘陵斜面には、昭和初期から操業を続ける一団の工場、工業団地が立地しています。

鉄道駅は、地域北部にJR北陸新幹線安中榛名駅、南東部にJR信越本線安中駅が立地しています。

地域内には、碓氷川、九十九川、柳瀬川、秋間川、岩井川などの河川や農地、山林などの自然環境があり、特に岩野谷地区や秋間地区に多く広がっています。また、「天神山自然の森」、「秋間梅林」などは自然とふれあえる交流の場として地域に親しまれています。

今後、地域南北を結ぶ西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の整備や新庁舎の建替えが進められるとともに、安中駅と磯部駅間に新駅の設置などが検討されています。

安中東地域の位置と構成



凡例			
 用途地域指定エリア	 地域境界	 主要幹線道路	 鉄道・駅
 都市計画区域	 地区境界	 幹線道路・補助幹線道路	 河川

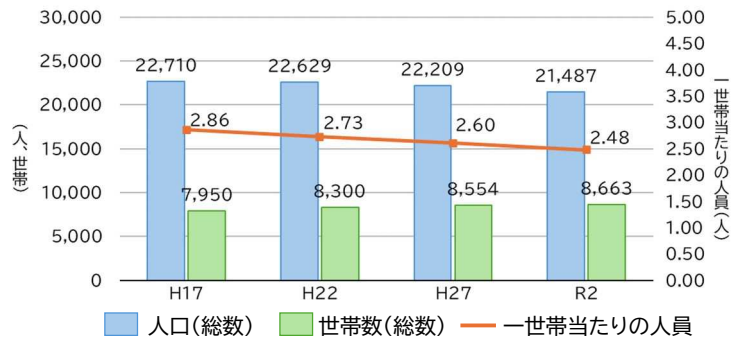
2-2 地域の概況と主なまちづくりの課題

(1) 人口動態・年齢構成

■人口と世帯数の推移

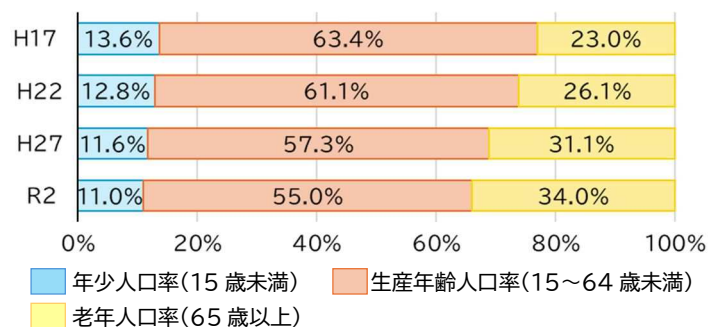
人口は、平成 17 年以降は横ばい傾向で、令和 2 年は、21,487 人、世帯数は増加傾向にあり、8,663 世帯となっています。

一世帯当たりの人員は減少しており、令和 2 年は、2.48 人／世帯となっています。



■年齢3区分別人口の推移

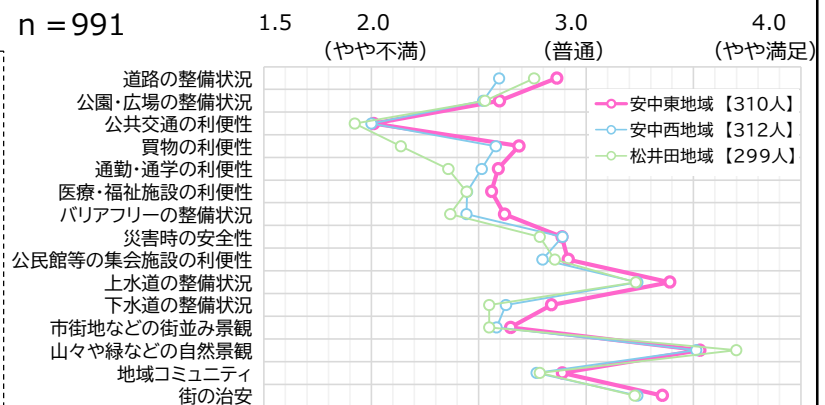
年齢構成は、平成 17 年以降、年少人口率及び生産年齢人口率は減少、老年人口率は増加しており、今後は急速な高齢化が予測されます。



(2) まちづくりに係る住民意向

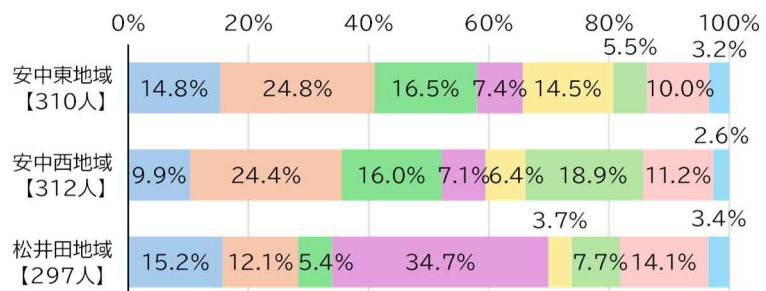
■地域環境の評価(市民意向調査) n = 991

他地域と比較して、満足度が高いものが多く、特に「バリアフリーの整備状況」や「下水道の整備状況」が高くなっています。地域内で最も満足度が高いものは、他地域と同様に「山々や緑などの自然景観」となっています。



■市が検討・実施している取組で期待するもの(市民意向調査) n = 991

「西毛広域幹線道路沿道の有効活用によるまちづくり」が最も高く、次いで「安中駅～磯部駅間の新駅設置による新たなまちづくり」となっています。



(3) 主なまちづくりの課題

土地利用に関する課題

拠点機能の拡大

- 安中市役所周辺の公共公益施設等の都市機能誘導による都市拠点機能の拡大
- 安中榛名駅周辺の日常生活に必要な生活サービス施設の確保による生活拠点機能の拡大

西毛広域幹線道路沿道の計画的なまちづくりの推進

- 新たに整備される西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道への都市機能および生活機能の誘導

都市交通に関する課題

市内各地域や市外との広域連携の強化

- 都市拠点となる安中市役所周辺と市内各地域との連絡強化、近隣都市との連携強化
- 生活拠点となる安中榛名駅周辺と市内各地域との連絡強化
- 西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）を活かした広域連携の強化
- 新駅構想を踏まえ、交通ネットワークの再構築
- 国道 18 号の渋滞緩和

誰もが利用しやすい公共交通の充実

- A I デマンド交通などの利用による生活利便性の向上

都市環境に関する課題

自然環境の活用・維持管理

- 自然環境を活用した交流空間の創出
- 身近な自然環境である河川や公園などの適切な維持管理

市街地の快適な居住環境の確保

- まちなか居住や安中宿のような観光交流ゾーンと連動した居住環境の創出
- 生活道路などの基盤施設の整備
- 空き家・空き地、耕作放棄地の発生防止や適切な維持管理
- 公園や河川沿川の親水空間のような身近な交流空間の確保
- 街路灯の設置など防犯性の向上

都市防災に関する課題

河川の浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策

- 災害時の避難場所・避難経路の確保
- 碓氷川や九十九川、柳瀬川など河川の浸水防止

都市景観に関する課題

山並みの眺望、河川などの自然環境・景観の保全・活用

- 旧中山道安中宿・安中城址周辺、板鼻宿の歴史的まちなみ景観の保全と活用
- 妙義山などの山並みの眺望、秋間梅林などの地域の自然環境・景観の保全・活用
- 石尊山、天神山などの高台からの眺望景観の確保

2-3 まちづくりの基本目標・基本方針

まちづくりの基本目標1 拠点機能の充実

安中市役所周辺の都市拠点は、新駅設置の推進や新庁舎建設などにより、行政、医療・福祉、商業・業務、教育・文化などの都市機能が集積した利便性の高いまちを目指します。

また、生活拠点となる安中榛名駅周辺は、商業施設などの日常生活に必要な生活サービス機能が充実した快適で暮らしやすいまちを目指します。

- 基本方針**
1. 都市拠点として安中市役所周辺や安中駅周辺の機能の充実
 2. 安中榛名駅周辺の利便性の向上

まちづくりの基本目標2 西毛広域幹線道路整備に伴う沿道まちづくりの推進

周辺環境と調和した西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）沿道の整備を進めることで、まとまりのある快適な沿道空間の形成を目指します。

- 基本方針**
1. 西毛広域幹線道路沿道の適切な土地利用の誘導
 2. 西毛広域幹線道路沿道の良好なまちなみの形成と周辺環境との調和
 3. 西毛広域幹線道路の走行快適性と安全性の確保

まちづくりの基本目標3 誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築

西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の整備や新駅構想に伴う、既存の交通ネットワークと新たな交通ネットワークの連携、自転車・歩行者空間の快適性の向上やA Iデマンド交通の整備などにより、誰もが移動しやすいまちを目指します。

- 基本方針**
1. 国道18号や西毛広域幹線道路整備による市内外との連絡強化
 2. 新駅構想など新たな交通ネットワークの構築
 3. 自転車・歩行者空間の快適性の向上

まちづくりの基本目標4 安全・安心に暮らせる生活環境の創出

激甚化・頻発化する自然災害への対策や既存の都市インフラの維持管理を推進することにより、高齢者や子育て世代など誰もが安心して暮らし続けることができるまちを目指します。

- 基本方針**
1. 碓氷川、九十九川、柳瀬川などの浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策強化
 2. 都市インフラの維持管理による快適な生活環境の創出

まちづくりの基本目標5 自然環境や地域資源を活かした交流の推進

「板鼻宿」、「安中宿」などの歴史的まちなみや「天神山自然の森」、「秋間梅林」などの山林自然環境、「碓氷川」、「九十九川」、「柳瀬川」などの河川敷を活用することで、多くの人が集まり交流するまちを目指します。

- 基本方針**
1. 地域の歴史や文化にふれることのできる観光・交流空間の創出
 2. 公園や河川などの交流空間の維持管理
 3. 山並みや緑地などの自然環境・景観の保全

まちづくりの基本方針

(1) 都市拠点として安中市役所周辺や安中駅周辺の機能の充実

①安中市役所周辺の都市機能の拡大

- 安中市役所周辺は、西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）の整備、新駅構想にあわせて、公共公益施設や生活利便施設の維持・誘導を推進します。また、国道 18 号や西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道は、地域住民を対象とした商業施設を誘導することで、市の中心となる利便性が高く、賑わいのある拠点を形成します。
- 旧中山道沿道の既成市街地は、近隣商業地として、歩行空間の拡充やリノベーション・インノベーションを含む空き家・空き地の活用などにより、まちなか居住機能を増進・再生します。
- 新庁舎については、イベント対応が可能な駐車場や外構の整備、安中体育館などの周辺の施設に繋がる歩行空間や広場の整備など、新たなまちづくりの核としての整備を推進します。
- 新庁舎竣工後の安中市役所跡地については、都市拠点の機能向上を図るため多角的な観点から跡地の利用方法を検討し、方針を定めた上で整備を行います。

②安中駅周辺の都市機能の維持

- 安中駅周辺は、公共公益施設や生活利便施設の確保や緩やかな居住誘導を図り、既存市街地のまちなかのまとまりを維持します。
- 安中駅南部に立地する一団の工場、工業団地については、地域の身近な職場として維持します。

(2) 安中榛名駅周辺の利便性の向上

- 安中榛名駅南部の秋間みのりが丘地区は、高台に位置する新幹線駅のある特徴的な立地環境を活かし、商業施設などの日常生活に必要な生活サービス機能の誘導を図ります。また、既存市街地におけるまちなかのまとまりを維持・形成するために緩やかな居住誘導と公共交通の利便性の向上を図り、落ち着いた生活拠点の形成を促進します。



安中榛名駅周辺の住宅地

まちづくりの基本方針

(1) 西毛広域幹線道路沿道の適切な土地利用の誘導

①都市拠点への商業・業務などの都市機能と居住機能の誘導

- 安中市役所周辺の西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道については、まちのにぎわいを保つため、商業・業務等の都市機能と居住機能の誘導を図ります。
- 拠点商業業務地となる碓氷川右岸の西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道地区は、西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）の整備に伴い、適切な土地利用を誘導します。

②既存市街地を核に住宅や店舗などの誘導

- 国道 18 号北部の既存市街地周辺の西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道については、まちのまとまりを維持するため、住宅や店舗などを誘導します。

③自然環境保全や農業振興の推進

- 田園・集落地及び自然環境保全・活用地となる J R 信越本線南部や秋間地区の西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道は、自然環境の保全や農業振興を図り、今ある美しい自然環境やみどりを適切に維持します。

(2) 西毛広域幹線道路沿道の良好なまちなみの形成と周辺環境との調和

①都市拠点にふさわしい風格ある沿道の景観まちづくりの推進

- 都市拠点となる安中地区の西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道については、沿道建築物の形態意匠の工夫など周辺の市街地と調和した景観まちづくりを推進します。

②周辺の自然と調和した景観まちづくりの推進

- 田園・集落地及び自然環境保全・活用地となる J R 信越本線南部や秋間地区の西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）沿道は、周辺の自然環境や眺望に配慮した景観まちづくりを推進します。

(3) 西毛広域幹線道路の走行快適性と安全性の確保

①安全な走行環境の確保

- 右折進入などによる渋滞や交通事故を防止するため、交差道路以外から西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）への直接乗入れ箇所及び交差点数を減らします。

②安全性の向上

- 小学校などの通学路となる安中市役所周辺は、自動車の速度を抑制することで歩行者の安全を確保します。



西毛広域幹線道路

まちづくりの基本方針

(1) 国道18号や西毛広域幹線道路整備による市内外との連絡強化

①国道18号の拡幅や交差点改良などによる地域東西の移動の円滑化

- 県内外の広域の都市間を連絡する主要幹線道路である国道18号の交通の円滑化、渋滞の解消、大量通過交通による地域環境への影響の軽減を図るため、拡幅整備、交差点改良など、関係機関に働きかけます。



国道18号
(交差点改良区間)

②西毛広域幹線道路整備による地域南北の交通の円滑化

- 西毛広域都市圏の都市間を連絡する主要幹線道路である西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の早期整備を関係機関に要望することで、地域南北の交通の円滑化を図り、近隣都市との連絡を強化します。
- 西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）整備に伴う地域の分断を防止するため、ハード・ソフト両面からの対応方策を推進します。

(2) 新駅構想など新たな交通ネットワークの構築

①公共交通手段の連携強化

- 安中市役所周辺において、新駅構想などの鉄道と、西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）や既存の幹線道路などの自動車交通の連携・接続により、新たな交通ネットワークを構築します。
- 新駅については、市外や市内の他拠点、枢要な公共公益施設とつながる地域の交通結節点として整備を関係機関に働きかけます。

②地域拠点間の連絡強化

- 路線バスやA Iデマンド交通の利用により、都市拠点である安中市役所周辺と生活拠点である安中榛名駅周辺、他の既存市街地との交通ネットワークを強化します。

(3) 自転車・歩行者空間の快適性の向上

①歩行空間の快適性・安全性の向上

- 多くの人が訪れる安中市役所などの主要な公共公益施設周辺の道路におけるユニバーサルデザイン化やバリアフリー化を推進し、誰もが歩きやすい空間を整備します。

②親水性のある歩行者・自転車交通のネットワークの形成

- 碓氷川・九十九川、柳瀬川などの沿川道路や広域観光交流のルートとなる幹線道路については、沿道の環境整備や景観保全と併せて、自転車・歩行者道、自転車通行帯等の整備などを進め、歩行者・自転車交通のネットワーク化を図ります。

まちづくりの基本方針

(1) 碓氷川、九十九川、柳瀬川などの浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策強化

①適切な維持管理による河川の浸水防止

- 台風や集中豪雨などに起因する洪水被害や浸水被害の防止・軽減を図るため、特に市街地を流れる碓氷川、九十九川、柳瀬川について関係機関と連携を図りながら維持管理を行い、治水機能を保ちます。



九十九川

②災害時の避難場所・避難経路の確保

- 安中駅周辺など浸水想定区域や地域北部の土砂災害警戒区域周辺は、公共公益施設等の機能更新に伴い、避難場所としての機能の整備や周辺道路やライフラインの耐震化を推進します。

③建築物や橋梁などの耐震性の向上

- 地震発生時の倒壊、延焼を防止するため密集市街地における建築物や橋梁の耐震化を推進します。

(2) 都市インフラの維持管理による快適な生活環境の創出

①空き家・空き地、耕作放棄地の適切な維持管理と有効活用の促進

- 人口減少が進み、空き家・空き地が増加している地区は、空き家・空き地の適正な維持管理とリノベーション・イノベーションなどによる生活利便施設への有効活用を促進します。

②耕作放棄地の土地利用転換と適切な維持管理の促進

- ごみの不法投棄の対象となる恐れのある耕作放棄地については、農地の集約化などによる管理体制の強化や利用目的の明確化を図り、適正な維持管理を促進します。

③防犯に配慮した生活環境の創出

- 道路や公園などの公共空間については、街路灯の設置や支障となる樹木の伐採などにより、防犯に配慮した生活環境の整備を促進します。

まちづくりの基本方針

(1) 地域の歴史や文化にふれることのできる観光・交流空間の創出

①既存市街地周辺での観光交流の推進

- 歴史的まちなみが残る旧中山道の宿場町である「安中宿」や「板鼻宿」、また安中駅周辺の市街地については、空き家・空き地を活用した観光商業機能の向上などを図ることで広域観光交流を推進します。

②自然環境を活かした交流の推進

- 「天神山自然の森」、「秋間梅林」などの地域の山林自然環境・農業生産環境と一体となった公園緑地施設については、アクセス道路の整備などにより、体験学習の場としての施設機能の拡充を図るとともに、学習の場を周辺の山林や農地へ広げて、その活用と土地の管理を促進します。
- 安中市立碓東小学校で実施している地域住民が協力し合って取組むビオガーデン整備のような自然環境を活かした環境教育活動の場を創出することにより、人々の自然環境保全への意識啓発を図るとともに、地域住民の交流を推進します。

(2) 公園や河川などの交流空間の維持管理

①公園や運動施設などの身近な交流空間の維持管理

- 「西毛総合運動公園」「安中市スポーツセンター」をはじめとする公園施設・スポーツ施設・遊具などの機能更新、施設長寿命化による効率的な施設維持管理を進めます。
- 都市の基幹公園である「西毛総合運動公園」の維持管理と陸上競技場施設の更新を推進します。
- 広域観光交流ゾーンの安中城址周辺や旧中山道沿道地区については、観光交流の場となるポケットパークや広場の整備を推進します。



安中市スポーツセンター

②碓氷川、九十九川、柳瀬川などの河川の維持管理と親水空間の創出

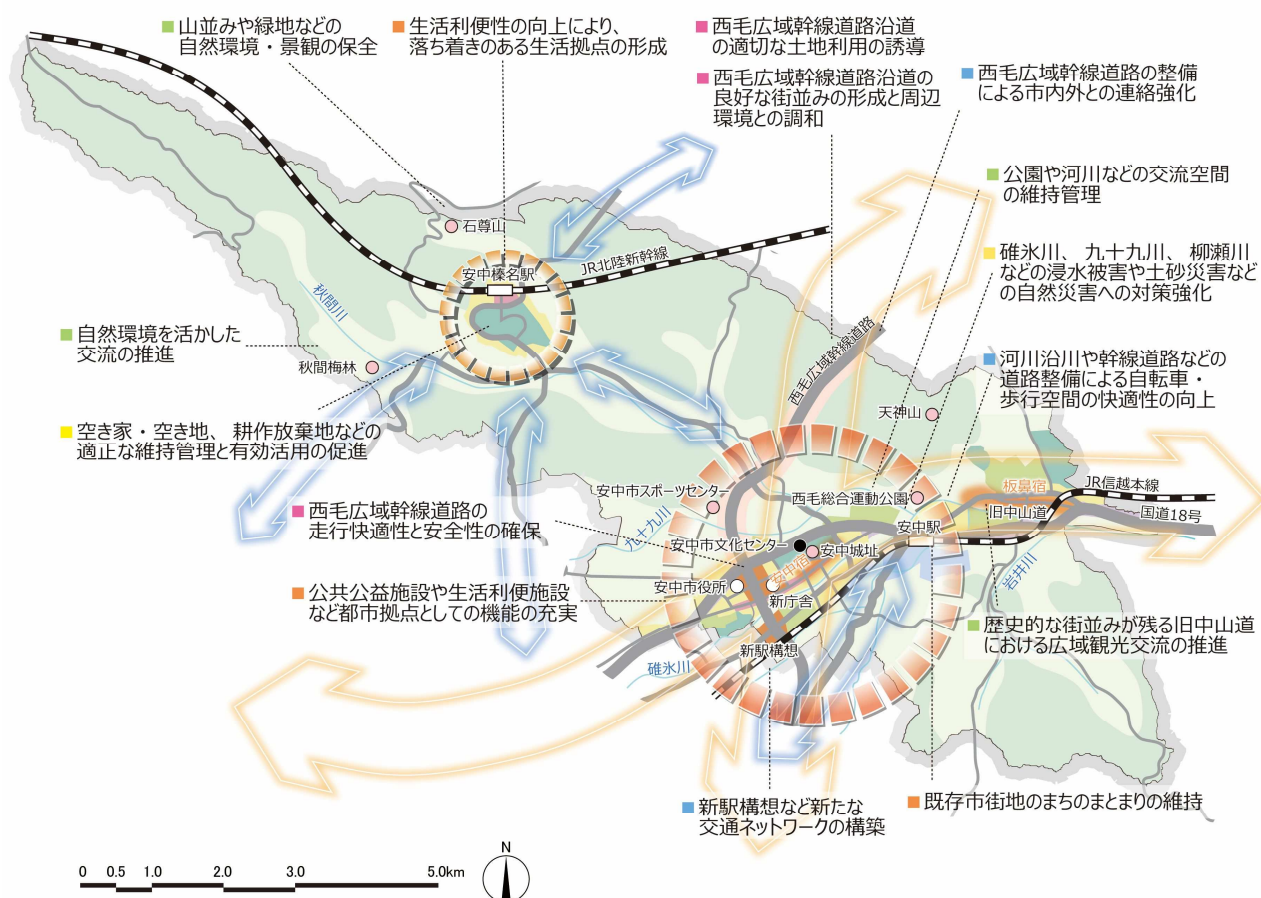
- 市街地に隣接する碓氷川、九十九川、柳瀬川については、河川の治水機能との調整を図りつつ、広場・歩行空間・自転車通行空間などの空間の創出を図るなど、生活に身近な親水空間としての活用を図ります。

(3) 山並みや緑地などの自然環境・景観の保全

- 工作物等を設置する際は、可能な限り遮らない、稜線を乱さない配慮をすることにより、妙義山をはじめとする美しい山並みや河岸段丘斜面の緑地の景観を良好に保ちます。
- 石尊山、天神山においては、来訪者による混雑などの影響を考慮しながら、景観を楽しめる空間整備などを推進することで、高台から展望することができる周辺の山々や住宅地の景観を良好に保ちます。

「安中東地域」将来構想図

- 基本目標 1 拠点機能の充実
- 基本目標 2 西毛広域幹線道路整備に伴う沿道まちづくりの推進
- 基本目標 3 誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築
- 基本目標 4 安全・安心に暮らせる生活環境の創出
- 基本目標 5 自然環境や地域資源を活かした交流の推進



凡例				
都市拠点	公共施設	拠点商業業務地	田園・集落地	補助幹線道路
生活拠点	地域資源	近隣商業地	自然環境保全・活用地	鉄道・駅
都市軸	低層住宅地	観光商業地	沿道環境形成地	河川
地域軸	中低層住宅地	沿道サービス業務地	主要幹線道路	地域境界
宿場	複合市街地	工業・流通業務地	幹線道路	

3 安中西地域

3-1 地域の特徴

安中西地域は、市の中央部に位置し、原市地区、磯部地区、東横野地区、後閑地区の4地区で構成されています。

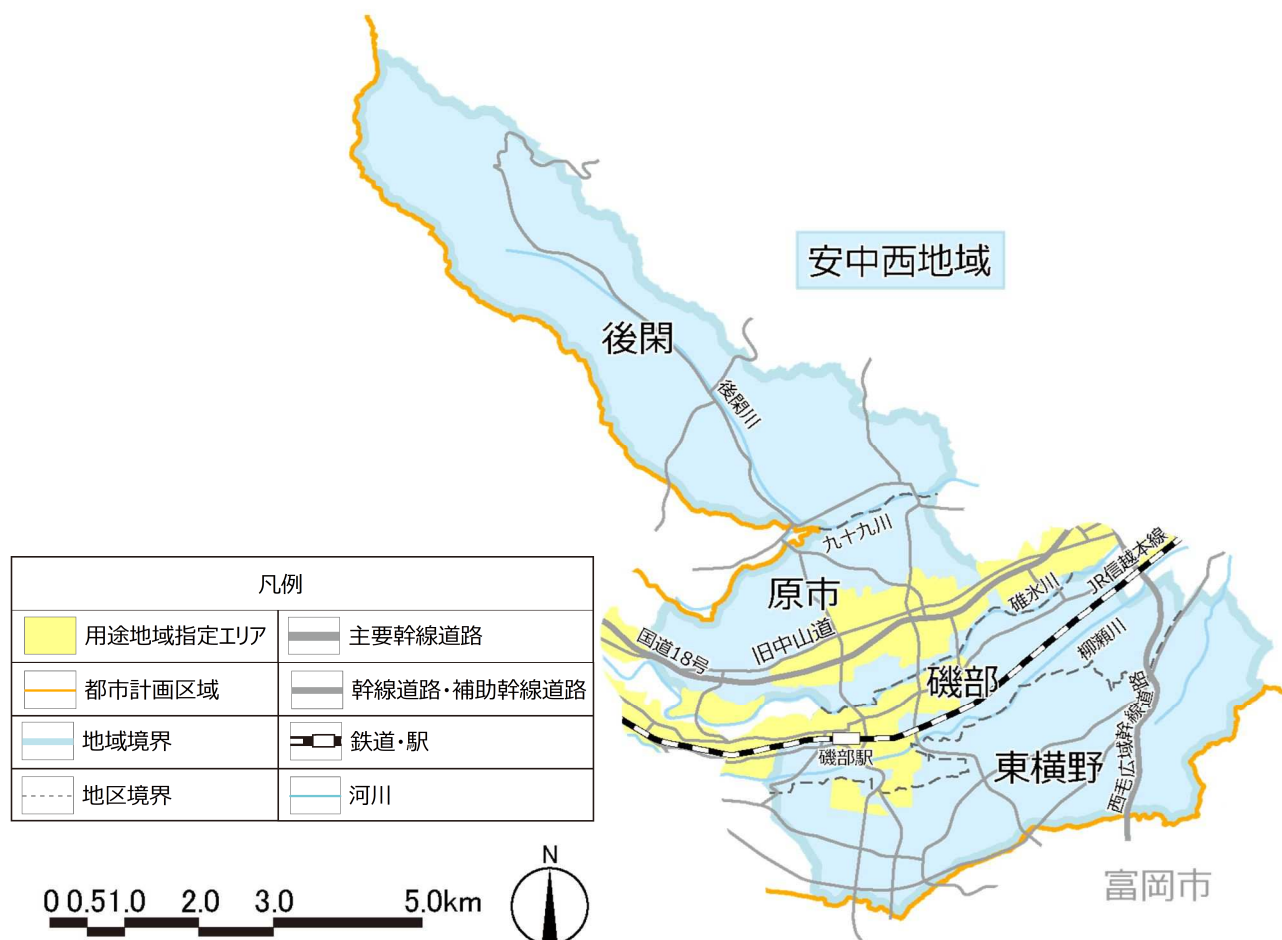
地域全域が都市計画区域となっており、磯部駅や原市交差点周辺は、小中学校や病院などの地域の主要な公共施設が集積した生活拠点となっています。主な市街地は、国道18号や旧中山道の沿道、磯部地区の県道磯部停車場上野尻線沿道（都市計画道路3・3・14水口磯部線）及び磯部駅周辺に形成されています。磯部駅の北側の碓氷川沿川には磯部温泉の温泉街があり、温泉旅館のほか、日帰り入浴施設「恵みの湯」や広場・駐車場などの温泉・観光関連施設が立地し、地域生活サービス機能を有する商店街と一体の観光商業地を形成しています。また、地域には多数の工場、工業団地が立地しており、特に磯部駅南側の主要地方道下仁田安中倉沢線沿道は、柳瀬川沿川低地から丘陵上部にかけて、市最大規模となっています。

鉄道駅は、JR信越本線磯部駅が立地しています。

地域内には、碓氷川、九十九川、柳瀬川の河川などの自然環境があり、特に東横野地区や後閑地区に多く広がっています。また、「後閑城址公園」やゴルフ場などは地域の自然や歴史文化を体験・学習できる場となっています。

現在、地域東部に西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の整備が進められています。

安中西地域の位置と構成



3-2 地域の概況と主なまちづくりの課題

(1) 人口動態・年齢構成

■人口と世帯数の推移

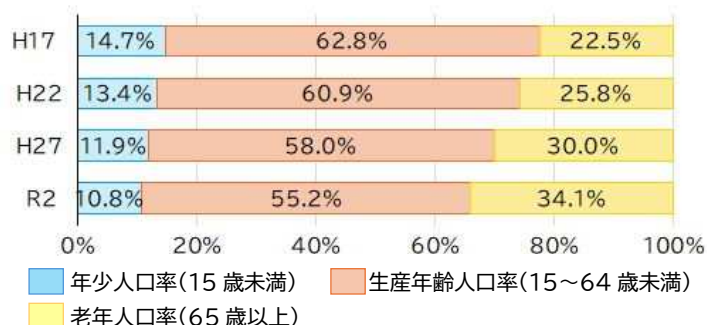
人口は、平成 17 年以降減少しており、令和 2 年は、21,288 人、世帯数は、平成 27 年以降増加傾向で、令和 2 年は、8,474 世帯となっています。

一世帯当たりの人員は減少しており、令和 2 年は、2.51 人／世帯となっています。



■年齢3区分別人口の推移

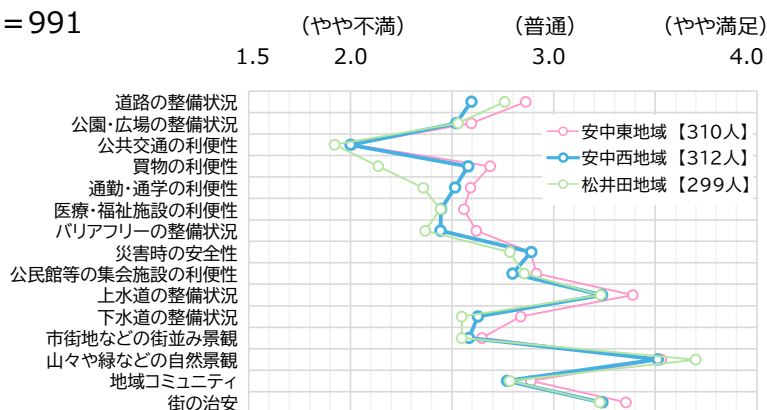
年齢構成は、平成 17 年以降、年少人口率及び生産年齢人口率は減少、老年人口率は増加しており、今後は急速な高齢化が予測されます。



(2) まちづくりに係る住民意向

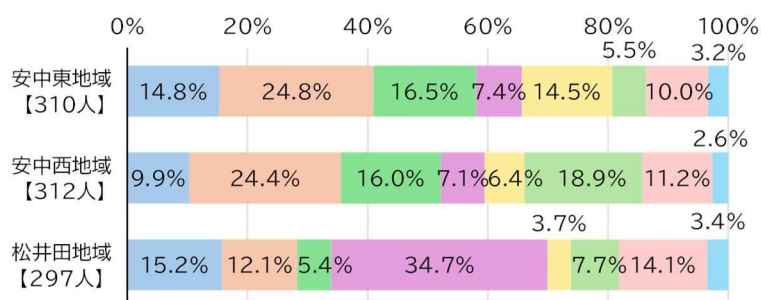
■地域環境の評価(市民意向調査) n = 991

他地域と比較して、「災害時の安全性」の満足度が高く、「道路の整備状況」の満足度が低くなっています。地域内で最も満足度が高いものは、他地域と同様に「山々や緑などの自然景観」となっています。



■市が検討・実施している取組で期待するもの(市民意向調査) n = 991

「西毛広域幹線道路沿道の有効活用によるまちづくり」が最も高く、次いで「磯部駅・磯部温泉街の活性化」となっています。



(3) 主なまちづくりの課題

土地利用に関する課題

観光拠点となる磯部駅周辺・磯部温泉街の活性化

- 観光施設の充実
- 観光交流空間となる公園やポケットパークなどの確保
- 地域の魅力や観光情報の発信

磯部駅南部の産業機能の拡大

- 計画的な産業機能の誘導

都市交通に関する課題

市内各地域や市外との広域連携の強化

- 西毛広域幹線道路（都市計画道路 3・6・10 南北中央幹線）を活かした近隣都市との連携の強化
- 国道 18 号の渋滞緩和

日常生活に必要な公共交通の確保

- A I デマンド交通の導入やバスの運行の再編による交通利便性の向上

産業用の交通による周辺環境への配慮

- トラックなどの産業用の交通による交通渋滞や交通安全性への配慮

都市環境に関する課題

市街地の快適な居住環境の確保

- 商業施設や医療施設などの生活利便施設の確保
- 生活道路などの基盤施設の整備
- 空き家・空き地、耕作放棄地の防止、適切な維持管理
- 街路灯の設置など防犯性の向上

住環境と産業、自然景観の調和

- 工場用地・工業団地周辺の産業廃棄物や水質汚濁、騒音など環境への配慮

都市防災に関する課題

河川の浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策

- 災害時の避難場所・避難経路の確保
- 碓氷川、九十九川、柳瀬川などの浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策

都市景観に関する課題

磯部駅周辺や磯部温泉街の風情あるまちなみの景観保全

- 磯部駅周辺や磯部温泉街の趣あるまちなみの景観保全

山並みや眺望、河川などの自然環境・景観の保全・活用

- 妙義山などの山並みの眺望、河川沿川の自然環境・景観の保全
- 身近な自然環境である河川や公園などの適切な維持管理
- 自然環境を活かしたレクリエーション機能や学習機能の増進
- 崇台山などの高台からの眺望計画の確保

3-3 まちづくりの基本目標・基本方針

まちづくりの基本目標1 生活拠点・観光拠点として魅力の向上

原市交差点・磯部駅周辺は、商業施設などの日常生活に必要な生活サービスがそろった生活しやすいまちを目指します。また、観光交流施設・空間や温泉地としての風情あるまちなみが魅力となる磯部駅周辺・磯部温泉街は、市内外から多くの人が集まり交流するまちを目指します。

- 基本方針**
1. 生活拠点としての原市交差点・磯部駅周辺の機能の充実
 2. 磯部駅周辺・磯部温泉街の地域資源を活かした観光機能の向上
 3. バリアフリーに配慮した空間整備

まちづくりの基本目標2 都市の産業機能の拡充

市最大規模の産業振興ゾーンが位置する地域として、市の産業を支え、地域経済の発展を促進します。また、市内外からの通勤や物流ネットワークのための交通と周辺の住宅地、自然が調和したまちを目指します。

- 基本方針**
1. 磯部駅南部などの工場用地、工業団地の産業機能の拡充
 2. 周辺の環境や景観へ配慮した産業施設の整備の推進
 3. 西毛広域幹線道路整備などによる市内外との物流ネットワークの強化

まちづくりの基本目標3 誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築

西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の整備や新駅構想に伴う、既存の交通ネットワークと新たな交通ネットワークの連携、自転車・歩行者空間の快適性の向上やA Iデマンド交通の整備などにより、誰もが移動しやすいまちを目指します。

- 基本方針**
1. 国道18号や西毛広域幹線道路整備による市内外との連絡強化
 2. 日常生活に必要な移動手段の確保
 3. 自転車・歩行者空間の快適性の向上

まちづくりの基本目標4 安全・安心に暮らせる生活環境の創出

激甚化・頻発化する自然災害への対策や既存の都市インフラの維持管理を推進することにより、高齢者や子育て世代など誰もが安心して暮らし続けることができるまちを目指します。

- 基本方針**
1. 碓氷川、九十九川、柳瀬川などの浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策強化
 2. 都市インフラの維持管理による快適な生活環境の創出

まちづくりの基本目標5 自然環境や景観の保全・活用と周辺市街地との調和

河川などの市街地に介在する身近な自然や河川上流部の山林自然環境の保全と有効活用を図り、市街地と自然が調和・共生したまちを目指します。

- 基本方針**
1. 公園や広場、河川などの自然環境の維持管理
 2. 山林自然環境・景観の保全・活用

まちづくりの基本方針

(1) 生活拠点としての原市交差点・磯部駅周辺の機能の充実

- 生活拠点となる原市交差点・磯部駅周辺において、商業施設などの日常生活に必要な生活サービスの誘導を図ります。また、既存市街地や団地などにおけるまちのまとまりを維持・形成するために、緩やかな居住誘導を図ります。



磯部駅

(2) 磯部駅周辺・磯部温泉街の地域資源を活かした観光機能の向上

①観光交流空間の整備

- 磯部温泉の市街地においては、隣接する碓氷川の自然環境・景観を活かしつつ、温泉街としてのたたずまいを演出しながら、宿泊・滞在ができる観光交流の場としてのまちづくりを推進します。また、空き家・空き地を活用し、温泉街としての風情ある歩行空間の整備や、日帰りや一時滞在に対応する商業・サービス機能の拡充を進めます。
- 「磯部公園」などの磯部駅周辺・磯部温泉街の広場や公園については、多くの人が賑わう観光交流の場として維持管理を図ります。

②観光地としての情報発信

- 多くの人が集まる駅などの公共公益施設での情報発信を強化やWebメディアなどを通して地域の観光情報や魅力を積極的に発信します。

③磯部温泉街の趣あるまちなみなどの魅力的な景観の保全

- 磯部駅周辺の施設や広場などの改修整備にあたっては、温泉街と一体となった景観形成や施設整備を推進します。
- 磯部温泉街周辺は、食堂や土産店などが軒を連ね、温泉街の情緒や雰囲気を楽しめる景観を保全します。
- 磯部温泉街の眺望点となる愛妻橋は、来訪者による混雑などの影響を考慮しながら、景観を楽しめる空間整備を推進します。

(3) バリアフリーに配慮した空間整備

- 磯部駅などの公共公益施設や観光交流の場となる商業・サービス機能が集積し、市内でも特に徒歩での利用が見込まれる磯部駅周辺・磯部温泉街の歩道について、ユニバーサルデザイン化の導入や段差解消などのバリアフリー化など重点的に整備することで、市民や来訪者など誰もが快適に歩ける空間を創出します。

まちづくりの基本目標2 都市の産業機能の拡充

まちづくりの基本方針

(1) 磯部駅南部などの工場用地、工業団地の産業機能の拡充

- 磯部駅南側の一団の既存大規模工場用地、工業団地については、市民の身近な職場として、既存工業の隣接部に計画的な産業用地の増進と活力ある産業機能の誘導を図ります。



磯部駅南部の
工場用地・工業団地

(2) 周辺の環境や景観へ配慮した産業施設の整備の推進

①通過交通などに配慮した輸送経路の最適化

- 主要幹線道路沿いや市街地と混在・隣接する工場用地、工業団地について、トラックや配送車の通行による渋滞や交通事故を防ぐため、輸送経路の最適化や自転車・歩行者の安全性に配慮した歩道の整備を推進します。

②周辺の住宅地や自然、景観との調和

- 主要幹線道路沿いや住宅地と混在・隣接する工場用地、工業団地について、産業施設のデザインや建物の外観・色彩に配慮することで、周辺の住宅地や自然景観との調和を図ります。また、工場用地、工業団地内に緑地を設けるなど、周辺の自然環境と調和を図ります。

(3) 西毛広域幹線道路整備などによる市内外との物流ネットワークの強化

- 西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）については、前橋方面と富岡方面の物流をネットワークする幹線道路として整備を促進します。
- 市域南部に磯部駅南側の一段の大規模工場用地、工業団地と西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）などの道路と接続する新たな幹線道路整備を検討することで、物流ネットワークの強化を促進します。

まちづくりの基本方針

(1) 国道18号や西毛広域幹線道路整備による市内外との連絡強化

①国道18号の拡幅整備や交差点改良などによる地域東西の移動の円滑化

- 国道18号の拡幅整備、交差点改良等を促進することにより、県内外の広域の都市間を連絡する主要幹線道路である国道18号の交通の円滑化、渋滞の解消、大量通過交通による地域環境への影響の軽減を図ります。
- 磯部停車場上野尻線（都市計画道路3・4・14水口磯部線）等の未整備の都市計画道路の整備を促進することにより、国道18号の交通の円滑化、渋滞の解消を図ります。



国道18号

②西毛広域幹線道路整備による地域南北の交通の円滑化

- 西毛広域都市圏の都市間を連絡する主要幹線道路である西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）の着実な整備を関係機関に働きかけることにより、近隣都市との連絡を強化します。

(2) 日常生活に必要な移動手段の確保

- 後閑地区や東横野地区の集落地など鉄道から離れた地区の買い物や通院などの生活交通の手段として、A Iデマンド交通などの利用システムを確立することで、生活利便性の向上を図ります。
- 磯部駅や病院など主要公共施設への交通手段となる路線バスの本数を増加するなど、利用者の需要に合わせて運行の再編を検討します。

(3) 自転車・歩行者空間の快適性の向上

①歩行空間の快適性・安全性の向上

- 多くの人が訪れる磯部駅や病院、小・中学校などの主要な公共施設周辺の道路について、ユニバーサルデザイン化やバリアフリー化を推進し、誰もが歩きやすい空間を整備します。
- 住宅から最寄りのバス停までの段差の解消などを行うことで、公共交通機関を利用しやすい環境を創出します。

②親水性のある歩行者・自転車交通のネットワークの形成

- 碓氷川、九十九川、柳瀬川などの沿川道路や広域観光交流のルートとなる幹線道路については、沿道の環境整備や景観保全と併せて、自転車・歩行者道、自転車通行帯等の整備を進め、歩行者・自転車交通のネットワーク化を図ります。

まちづくりの基本方針

(1) 碓氷川、九十九川、柳瀬川などの浸水被害や土砂災害などの自然災害への対策強化

①適切な維持管理による河川の浸水防止

- 台風や集中豪雨などに起因する洪水被害や浸水被害の防止・軽減を図るため、特に市街地を流れる碓氷川、九十九川、柳瀬川について関係機関と連携を図りながら機能の維持管理を行い、治水機能を保ちます。



柳瀬川

②斜面の砂防・治山対策

- 総合的な治水対策を進めるとともに、後閑川上流部などの土砂災害の恐れのある斜面についての砂防・治山対策を推進します。

③建築物や橋梁などの耐震性の向上

- 地震発生時の倒壊、延焼を防止するため密集市街地における建築物や橋梁の耐震化を推進します。

(2) 都市インフラの維持管理による快適な生活環境の創出

①道路沿道の支障木などの適切な維持管理

- 東横野地区、後閑地区の集落地などにおける道路沿道の支障木などの適切な維持管理を図ります。

②空き家・空き地、耕作放棄地の適切な維持管理と有効活用の促進

- ゴミの不法投棄や不法侵入などによる犯罪のターゲットになりやすい空き家・空き地、耕作放棄地においては、適切な維持管理と生活利便施設などへの有効活用を促進します。

③防災に配慮した生活環境の創出

- 道路や公園などの公共空間については、街路灯の設置や支障となる樹木の伐採などにより、防犯に配慮した生活環境の整備を促進します。

(1) 公園や広場、河川などの自然環境の維持管理

①公園や広場などの身近な自然環境の維持管理

- 「あんなかスマイルパーク」をはじめとする公園施設・スポーツ施設・遊具などの機能更新、施設長寿命化による効率的な施設維持管理を進めます。

②碓氷川、九十九川、柳瀬川などの河川の維持管理と親水空間の創出

- 市街地に隣接する碓氷川、九十九川、柳瀬川については、河川の治水機能との調整を図りつつ、広場・歩行空間・自転車通行空間などの空間の創出を図るなど、生活に身近な親水空間としての活用を図ります。

(2) 山林自然環境・景観の保全・活用

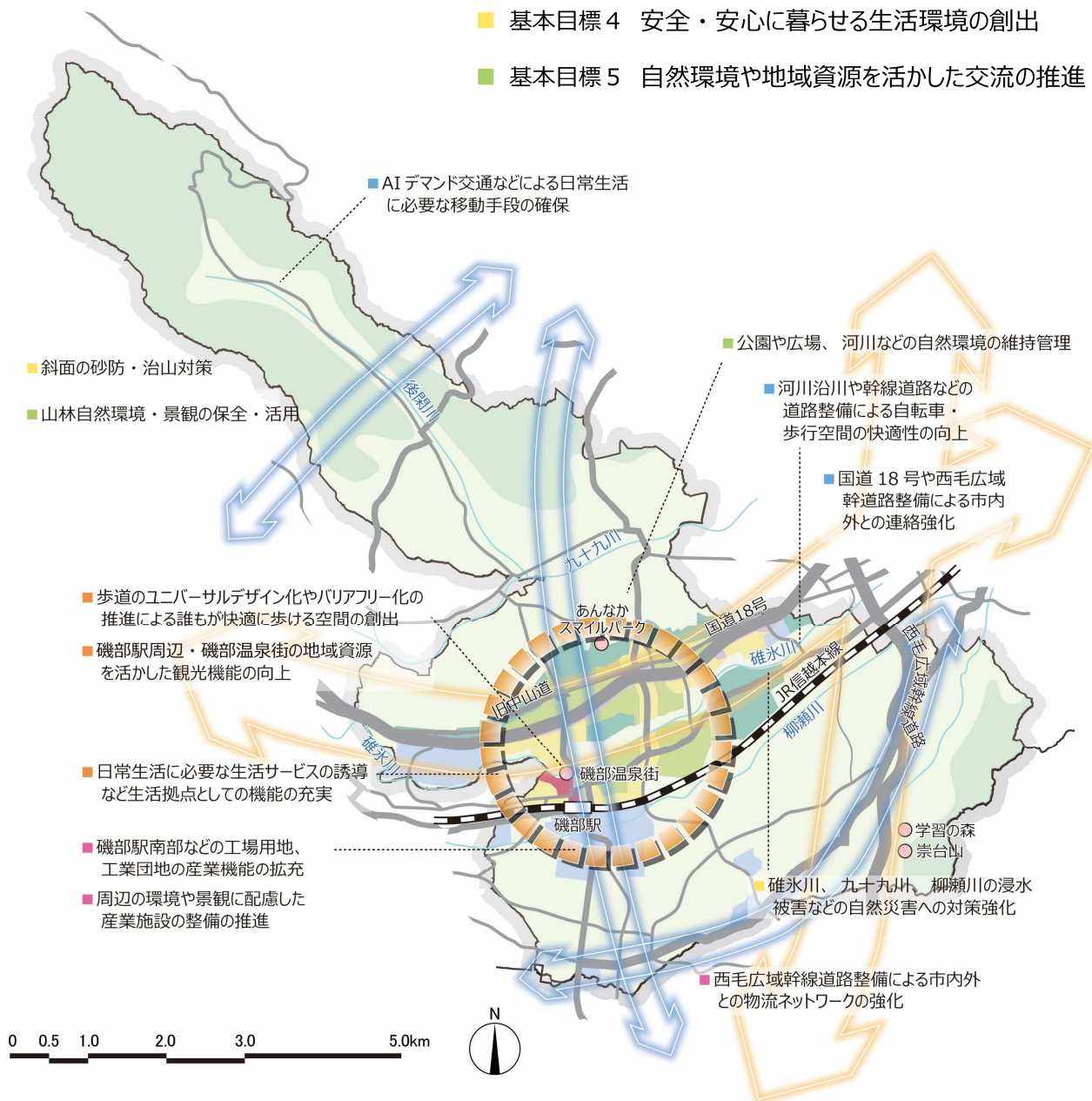
- 工作物等を設置する際は、可能な限り遮らない、稜線を乱さない配慮をすることにより、妙義山をはじめとする美しい山並みや河岸段丘斜面の緑地の景観を良好に保ちます。
- ゴルフ場や「学習の森」、「後閑城址公園」の周辺山林を含めた環境の保全と地域の自然や歴史文化を体験・学習できる空間として利用を促進します。
- 崇台山においては、来訪者による混雑などの影響を考慮しながら、景観を楽しめる空間整備などを推進することで、高台から展望することができる周辺の山々や住宅地の景観を良好に保ちます。



学習の森と周辺山林

「安中西地域」将来構想図

- 基本目標 1 生活拠点・観光拠点として魅力の向上
- 基本目標 2 都市の産業機能の拡充
- 基本目標 3 誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築
- 基本目標 4 安全・安心に暮らせる生活環境の創出
- 基本目標 5 自然環境や地域資源を活かした交流の推進



凡例				
生活拠点	地域資源	近隣商業地	自然環境保全・活用地	鉄道・駅
都市軸	低層住宅地	観光商業地	沿道環境形成地	河川
地域軸	中低層住宅地	沿道サービス業務地	主要幹線道路	地域境界
宿場	複合市街地	工業・流通業務地	幹線道路	
公共施設	拠点商業業務地	田園・集落地	補助幹線道路	

「安中市バリアフリーマスタープラン及び碓部温泉地区バリアフリー基本構想」 を策定しました

バリアフリーマスタープラン、バリアフリー基本構想とは

本市では、移動等円滑化促進方針(バリアフリーマスタープラン)とバリアフリー基本構想を、「安中市バリアフリーマスタープラン（移動等円滑化促進方針）及び碓部温泉地区バリアフリー基本構想」として一体的に策定しました。

計画期間

2024（令和6）－2033（令和15）年度

移動等円滑化促進方針(バリアフリーマスタープラン)

市におけるバリアフリー化の促進に関する方針



バリアフリー基本構想

バリアフリー化に関わる具体的な事業を
定めて進めるための計画

移動円滑化促進方針（バリアフリーマスタープラン）

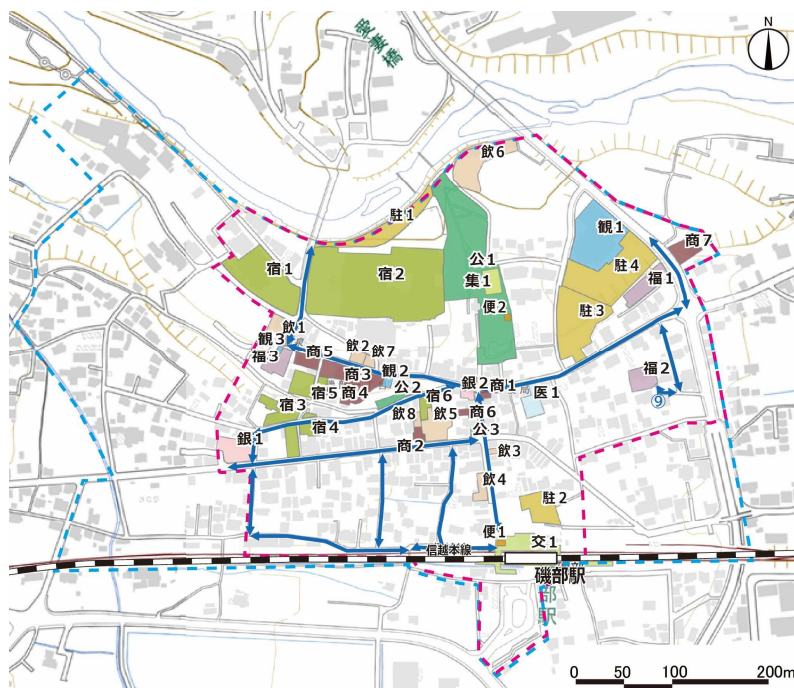
高齢者や障がい者、外国人などすべての人々がよく利用する施設が、概ね徒歩圏内に集まっており、バリアフリー化を促進することが特に必要な地区を移動等円滑化促進地区として定めます。

本市は、主要な観光地である碓部温泉地区を移動等円滑化促進地区として定めています。

バリアフリー基本構想

移動等円滑化促進地区のうち、具体の事業によって旅客施設、建築物、道路、路外駐車場、都市公園等のバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進する地区を重点整備地区として定めます。

本市は、碓部駅及び碓部温泉街を主とした範囲を重点整備地区として定めます。また、重点整備地区内において、高齢者、障がい者などがよく利用する施設を生活関連施設、これらの施設を結ぶ経路を生活関連経路として定め、これらのバリアフリー化の整備を進めます。



	移動等円滑化促進地区
	重点整備地区

生活関連施設		
	交 1	公共交通
	医 1	医療施設
	福 1 - 3	福祉施設
	観 1 - 3	観光施設
	宿 1 - 6	宿泊施設
	集 1	集会所・公民館
	銀 1 - 2	銀行・郵便局
	公 1 - 3	公園
	商 1 - 7	商店
	飲 1 - 8	飲食店
	駐 1 - 4	駐車場
	便 1 - 2	公衆便所
	生活関連経路	

4 松井田地域

4-1 地域の特徴

松井田地域は、市域西部に位置し、松井田地区、臼井地区、坂本地区、西横野地区、九十九地区、細野地区の6地区で構成されています。

碓氷川沿い、国道 18 号沿道を中心に都市計画区域となっており、松井田仲町交差点・西松井田駅周辺は松井田庁舎など地域の日常生活を支える商業施設や公共公益施設が集積した地域拠点、横川駅周辺は生活拠点となっています。主な市街地は松井田駅・西松井田駅・横川駅周辺、坂本地区、西横野地区の信越本線沿線、旧中山道沿いに形成されています。

鉄道駅は、地域南東部にＪＲ信越本線松井田駅、西松井田駅、地域中央部に横川駅が立地しています。

地域内には、碓氷川、九十九川などの河川が通っています。地域の大部分は自然公園区域及び国有林に指定された山林区域となっており、ゴルフ場や「群馬県野鳥の森・小根山森林公園」などに活用されています。また、碓氷関所跡、碓氷峠鉄道施設群など多数の観光施設が立地しており、市最大の広域観光交流ゾーンとなっています。碓氷関所跡と碓氷峠越（坂本宿西方の街道が残る箇所から碓氷峠へと登り、峠に位置する熊野神社までの約8 km）は、国史跡に指定されています。

今後、横川駅隣接地に新たに道の駅の整備が検討されています。

松井田地域の位置と構成



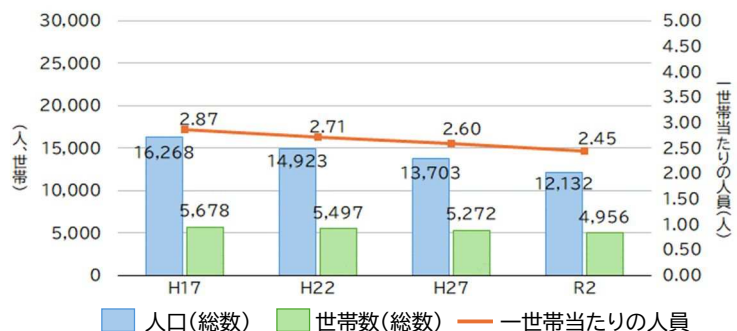
4-2 地域の概況と主なまちづくりの課題

(1) 人口動態・年齢構成

■人口と世帯数の推移

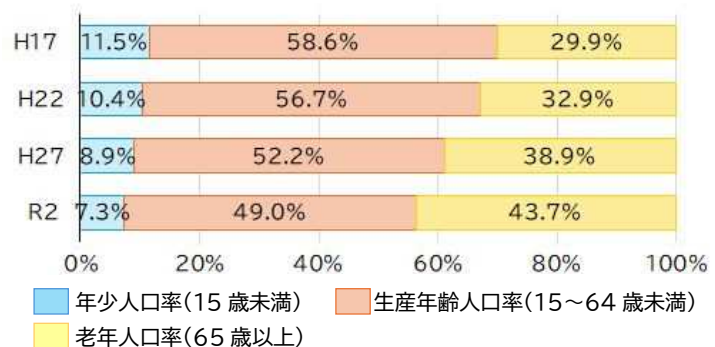
人口は、平成 17 年以降減少しており、令和 2 年は、12,132 人、世帯数も減少を続け、4,956 世帯となっています。

一世帯当たりの人員は減少しており、令和 2 年は、2.45 人／世帯となっています。



■年齢3区分別人口の推移

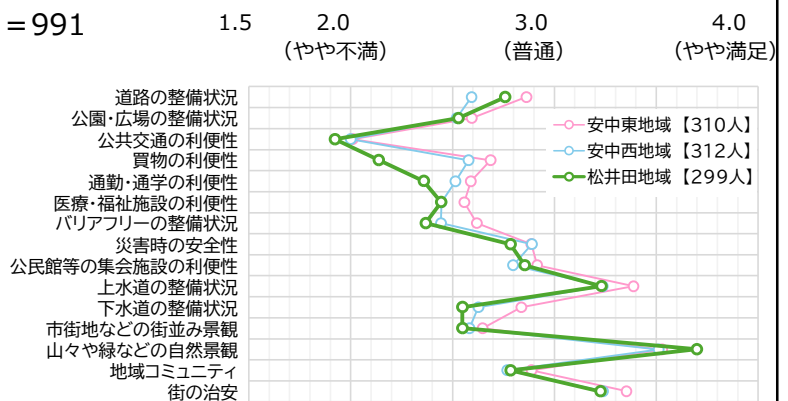
人口年齢構成は、平成 17 年以降、年少人口率及び生産年齢人口率は減少、老年人口率は増加しており、今後は急速な高齢化が予測されます。



(2) まちづくりに係る住民意向

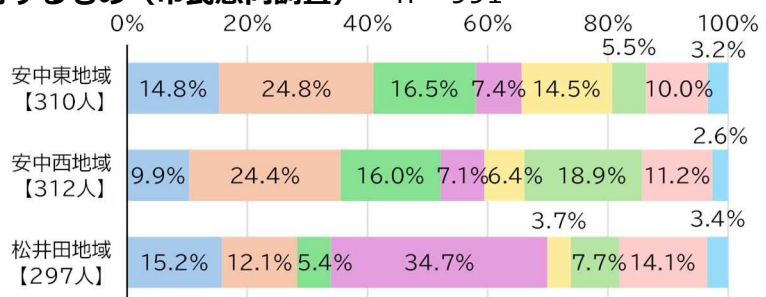
■地域環境の評価(市民意向調査) n = 991

最も満足度が高いのは「山々や緑などの自然景観」となっており、他地域と比較しても最も高くなっています。他地域と比較して、最も低いのが「公共交通の利便性」となっています。



■市が検討・実施している取組で期待するもの(市民意向調査) n = 991

「横川駅隣接地への道の駅の整備による観光誘客や交流人口の増加」が最も高く、次いで、「機能的でシンプル・コンパクトな安中市役所本庁舎の建替え」が高くなっています。



(3) 主なまちづくりの課題

土地利用に関する課題

拠点機能の維持・拡充

- 松井田仲町交差点・西松井田駅周辺の日常生活に必要な生活サービス機能の確保による地域拠点機能の維持・拡充
- 横川駅周辺の生活拠点機能の創出・維持による生活拠点機能の維持・拡充

道の駅を活かした観光まちづくりの推進

- 碓氷関所跡などの歴史的資源や農産物などの地域の魅力や観光情報の発信
- イベントスペースなどの地域住民や観光客が交流できる空間の創出
- 碓氷峠の鉄道遺産群などの歴史・文化財の保全と観光拠点としての魅力向上

都市交通に関する課題

拠点周辺の交通機能の維持・強化

- 松井田駅周辺の交通の利便性の維持
- 西松井田駅の交通結節点としての機能強化
- 横川駅周辺の交通の利便性向上

日常生活に必要な公共交通の確保

- A I デマンド交通の導入による地域内の集落地と拠点地区の連絡強化

都市環境に関する課題

拠点周辺の快適な居住環境の確保

- 生活道路などの基盤施設の整備
- 空き家・空き地、耕作放棄地の発生防止、適切な維持管理
- 有害鳥獣被害への対策
- 街路灯の設置など防犯性の向上

都市防災に関する課題

土砂災害や河川の浸水被害などの自然災害への対策

- 横川駅周辺や碓氷バイパス沿道などの土砂災害防止
- 災害時の避難場所・避難経路の確保
- 碓氷川や九十九川など河川の浸水防止

都市景観に関する課題

山並みや眺望、河川などの自然環境・景観の保全・活用

- 妙義山などの山並みの眺望、湖の自然環境・景観の保全
- 身近な自然環境である河川や公園などの適切な維持管理
- 市街地周辺の農地や農村景観の保全

4-3 まちづくりの基本目標・基本方針

まちづくりの基本目標1 地域拠点・生活拠点の維持・拡充

松井田仲町交差点・西松井田駅周辺は、地域内各地区との交通連絡を強化しつつ、地域の方が不便なく日常生活が送れるまちを目指します。また、横川駅周辺は、上信越自動車道横川SAと設置が予定されている道の駅との連携などを検討することにより、地域活性化を進めます。

- 基本方針**
1. 地域拠点としての松井田仲町交差点・西松井田駅周辺の機能充実
 2. 地域拠点周辺の居住環境の維持
 3. 生活拠点としての横川駅周辺の機能の創出・維持

まちづくりの基本目標2 新たに設置される道の駅を活かしたまちづくりの促進

横川駅隣接地に計画されている道の駅を活用し、地域の観光情報の発信や交流促進を図ることで市内外から多くの人々が訪れ、賑わうまちを目指します。

- 基本方針**
1. 道の駅を活用し地域の観光情報の発信
 2. 新たな道の駅整備による交通結節機能の強化
 3. 地域住民や観光客の交流の促進

まちづくりの基本目標3 誰もが移動しやすい生活交通手段の確保

高齢化の進んだ地域社会において、AIデマンド交通の整備により、買い物や通院などにおいて、自家用車がなくても移動しやすいまちを目指します。

- 基本方針**
1. 各地区や市外と連絡する交通ネットワークの強化
 2. 日常生活に必要な移動手段の確保
 3. 歩行者空間の快適性の向上

まちづくりの基本目標4 安全・安心に暮らせる生活環境の創出

激甚化・頻発化する自然災害への対策や既存の都市インフラの維持管理を推進することにより、高齢者や子育て世代など誰もが安心して暮らし続けることができるまちを目指します。

- 基本方針**
1. 土砂災害や碓氷川の浸水被害などの自然災害への対策強化
 2. 都市インフラの維持管理による快適な生活環境の創出

まちづくりの基本目標5 豊かな自然環境や景観、地域資源の保全・活用

妙義山などの美しい自然や碓氷関所跡などの歴史ある地域資源を保全するとともに、広域観光交流として活用することで、みどり豊かで潤いのあるまちを目指します。

- 基本方針**
1. 地域の歴史や文化にふれることのできる観光交流の推進
 2. 公園や広場、河川などの自然環境の維持管理
 3. 妙義山や碓氷湖・妙義湖などの豊かな自然環境や景観の保全

まちづくりの基本方針

(1) 地域拠点としての松井田仲町交差点・西松井田駅周辺の機能充実

①日常生活に必要な生活サービス機能の誘導

- 地域拠点となる松井田仲町交差点・西松井田駅周辺においては、商業施設などの日常生活に必要な生活サービス機能の積極的な誘導を図ります。

②交通結節点としての機能強化

- 松井田駅周辺においては、既存の交通インフラを適切に維持・管理することで、駅周辺を円滑に利用できる環境を確保します。
- 西松井田駅周辺においては、路線バスやA I デマンド交通などで他地域や他地区と連絡するなど、地域の交通結節点としての機能を強化し、地域の利便性の向上を図ります。



松井田駅

(2) 地域拠点周辺の居住環境の維持

- 地域拠点となる松井田仲町交差点・西松井田駅周辺においては、まちのまとまりを維持・形成するために緩やかな居住誘導を図ります。

(3) 生活拠点としての横川駅周辺の機能の創出・維持

- 生活拠点となる横川駅周辺においては、上信越自動車道横川S A と設置が予定されている道の駅との連携などを検討することにより、地域活性化や公共交通の利便性の向上など生活拠点機能の創出・維持を図ります。

まちづくりの基本方針

(1) 道の駅を活用し地域の観光情報の発信

①本市の歴史的資源や景観などの広域観光情報の発信

- 道の駅を活用し、碓氷関所跡、碓氷峠鉄道文化遺産などの遺構、歴史的まちなみ、妙義山の眺望などの広域観光情報を積極的に発信することで、市内外からの来訪者の増加を図ります。



道の駅建設予定地

②本市の農産物や特産品の販売・情報発信

- 道の駅を活用し、本市の農産物・特産品の販売・情報発信を行うことで市内外からの需要や消費者の地域産品への関心を高めます。また、農産物・特産品の情報共有を通して、地域内の住民や生産者とのつながり強化を図ります。
- 地域の木材を、道の駅施設の構造や内外装、建具などに利用するなど、地域産木材活用モデルとしての役割を担うことで、地域産業の活性化や環境負荷の低減を図ります。

(2) 新たな道の駅整備による交通結節機能の強化

- 道の駅を路線バスやA I デマンド交通、カーシェア、レンタサイクルなど地域の需要にあった公共交通の拠点として整備することで、地域住民の日常的な交通ネットワークの強化と、J R横川駅や上信越自動車道、国道18号など既存の公共交通や道路と連携し、碓氷峠観光や市内の観光周遊を誘発します。

(3) 地域住民や観光客の交流の促進

- 地域住民や観光客が集えるスポーツイベント会場を整備することで、地域コミュニティの強化や観光交流空間の創出を図ります。
- 碓氷峠のヒルクライムや廃線ウォーク、トレッキングを楽しむサイクリストやハイカーの向けの簡易宿泊施設や休憩室などを整備することで、地域の観光交流を促進します。

まちづくりの基本方針

(1) 各地区や市外と連絡する交通ネットワークの強化

- 松井田地区と地域内各地区や軽井沢方面を結ぶ国道18号をはじめとした幹線道路の狭あい区間の拡幅、交差点改良など、関係機関と連携を図りながら、道路機能の早期整備を要望します。

(2) 日常生活に必要な移動手段の確保

- 鉄道から離れた地区の買い物や通院などの生活交通の手段として、AIデマンド交通などの利用システムを確立することで、生活利便性の向上を図ります。
- 松井田駅や西松井田駅、病院など主要公共施設への交通手段となる路線バスの本数を増加するなど、利用者の需要に合わせて運行の再編を検討します。



AI デマンド交通

(3) 歩行者空間の快適性の向上

- 多くの人が訪れる松井田駅などの鉄道駅周辺や、松井田庁舎や松井田小学校などの主要な公共施設周辺の道路について、ユニバーサルデザイン化やバリアフリー化を推進し、誰もが歩きやすい空間を整備します。
- 住宅から最寄りのバス停までの段差の解消などを行うことで、公共交通機関を利用しやすい環境を創出します。

まちづくりの基本方針

(1) 土砂災害や碓氷川の浸水被害などの自然災害への対策強化

①災害時の避難場所・避難経路の確保

- 松井田駅周辺などの浸水想定区域や横川駅周辺などの土砂災害警戒区域は、災害時の孤立を防ぐため、公共公益施設などの機能更新に伴い、避難場所としての機能の整備や周辺道路やライフラインの耐震化を推進します。
- 新たに設置される道の駅においては、地域住民や滞在者の避難場所や非常時に活用できる防災用品等を整備することで地域の防災機能を強化します。また、降雨、積雪、土砂災害などによる通行止の際に安全かつ円滑にUターンできる車路や駐車場、ドライバーの休憩施設としての機能を確保します。

②斜面の砂防・治山対策

- 総合的な治水対策を進めるとともに、横川駅周辺や碓氷バイパス沿道などの土砂災害の恐れのある斜面についての砂防・治山対策を推進します。

③適切な維持管理による河川の浸水防止

- 台風や集中豪雨などに起因する洪水被害や浸水被害の防止・軽減を図るため、特に市街地を流れる碓氷川について関係機関と連携を図りながら機能の維持管理を行い、治水機能を保ちます。



碓氷バイパス

④建築物や橋梁などの耐震性の向上

- 地震発生時の倒壊、延焼を防止するため密集市街地における建築物や橋梁の耐震化を推進します。

(2) 都市インフラの維持管理による快適な生活環境の創出

①道路沿道の支障木などの適切な維持管理

- 臼井地区、坂本地区の集落地などにおける道路沿道の支障木などの適切な維持管理を図ります。

②空き家・空き地、耕作放棄地の適切な維持管理と有効活用の促進

- ゴミの不法投棄や不法侵入などによる犯罪のターゲットになりやすい空き家・空き地、耕作放棄地においては、適切な維持管理と生活利便施設などへの有効活用を促進します。

③防災に配慮した生活環境の創出

- 道路や公園などの公共空間については、街路灯の設置や支障となる樹木の伐採などにより、防犯に配慮した生活環境の整備を促進します。

まちづくりの基本方針

(1) 地域の歴史や文化にふれることのできる観光交流の推進

①自然環境を活かした観光交流の推進

- 広域の林間レクリエーションの場である丘陵上部のゴルフ場や、森林環境・文化の体験学習の場である「群馬県野鳥の森・小根山森林公園」の周辺山林を含めた環境の保全とアクセス機能の拡充などにより、利用の促進とレクリエーション機能・学習機能の増進を図ります。

②地域資源を活かした観光交流の推進

- 地域の歴史的資源となる「碓氷関所跡」「碓氷峠鉄道文化遺産」「松井田城址」などの遺構、歴史的まちなみや妙義山の眺望などを保全、「霧積温泉」などの観光交流施設を活用するとともに、積極的な情報発信を行うことで、広域観光交流を推進します。
- 歴史的まちなみが残る旧中山道の宿場町である「松井田宿」、「坂本宿」については、空き家・空き地を活用した観光商業機能の向上などを行うことで広域観光交流を推進します。

(2) 公園や広場、河川などの自然環境の維持管理

①公園や広場などの身近な自然環境の維持管理

- 地域の公園・緑地の利用需要に即して、施設間の連携、役割分担と施設の老朽化を考慮しつつ、「坂本スポーツ広場」をはじめ、公園施設・スポーツ施設・遊具等の効果的な機能更新整備、施設長寿命化による効率的な施設維持管理を推進します。

②碓氷川や九十九川などの河川の維持管理と親水空間の創出

- 市街地に隣接する碓氷川・九十九川については、河川の治水機能との調整を図りつつ、広場・歩行空間・自転車通行空間などの空間の創出を図るなど、生活に身近な親水空間としての活用を図ります。

(3) 妙義山や碓氷湖・妙義湖などの豊かな自然環境や景観の保全

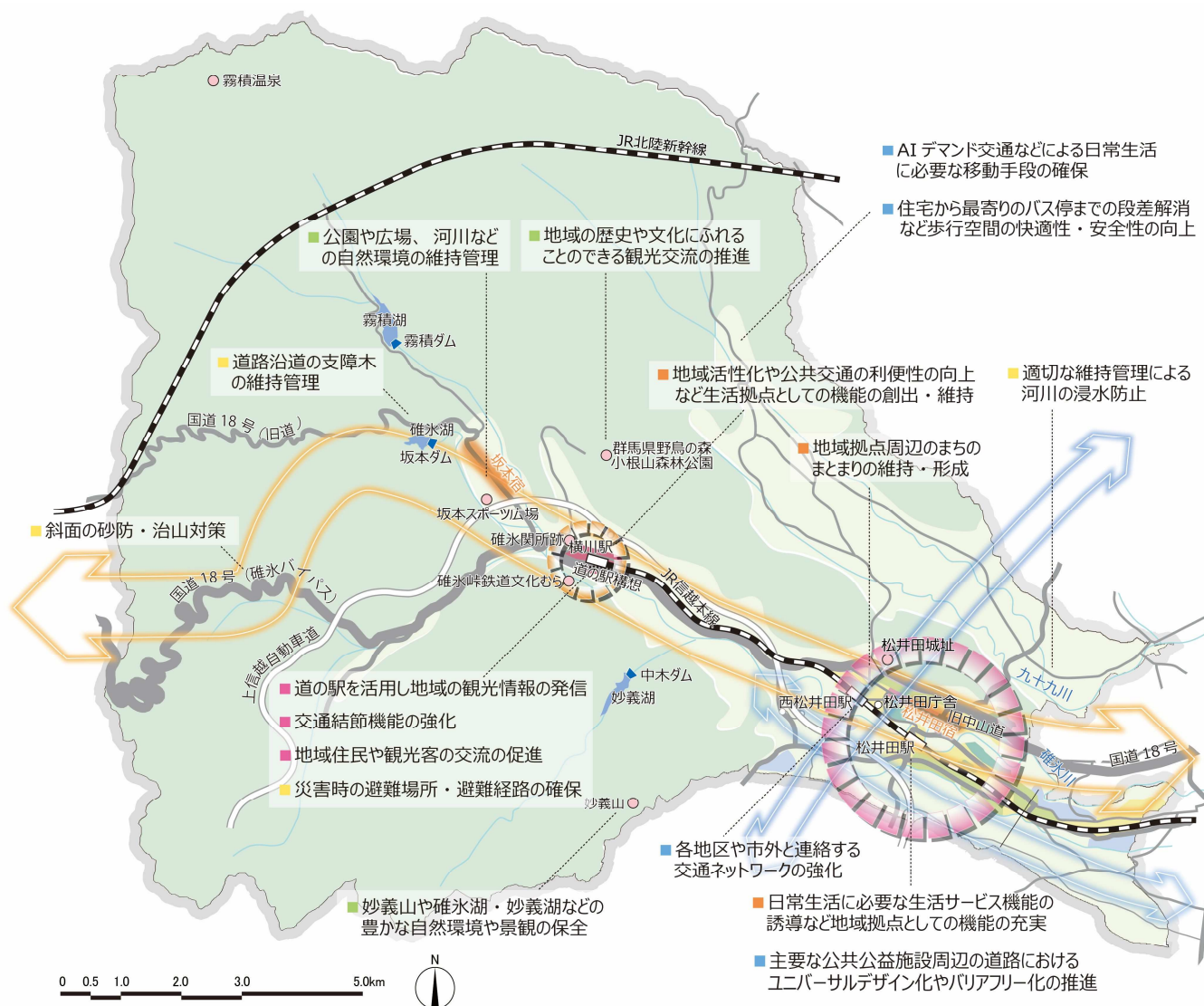
- 妙義山などの美しい山並みや碓氷湖、妙義湖、点在するダムや滝、農地などの豊かな自然環境を保全するとともに、景観を楽しめる散策のルートなどの空間整備を推進します。
- 旧中山道や上信越自動車道沿道地区については、農地・集落地地区や森林・山林地区などの景観形成方針に加えて、高速道路からの眺望や周辺景観への配慮を行うための景観まちづくりを推進します。



坂本ダム

「松井田地域」の将来構想図

- 基本目標 1 地域拠点・生活拠点の維持・拡充
- 基本目標 2 新たに設置される道の駅を活かしたまちづくりの促進
- 基本目標 3 誰もが移動しやすい生活交通手段の確保
- 基本目標 4 安全・安心に暮らせる生活環境の創出
- 基本目標 5 豊かな自然環境や景観、地域資源の保全・活用



凡例				
 地域拠点	 公共施設	 複合市街地	 工業・流通業務地	 幹線道路
 生活拠点	 地域資源	 拠点商業業務地	 田園・集落地	 補助幹線道路
 都市軸	 ダム	 近隣商業地	 自然環境保全・活用地	 鉄道・駅
 地域軸	 低層住宅地	 観光商業地	 高規格幹線道路	 河川
 宿場	 中低層住宅地	 沿道サービス業務地	 主要幹線道路	 地域境界

